

## 令和6年度 第1回甲賀市商工業振興計画審議会 会議録

【日時】 令和6年7月4日（木） 15:00～17:00

【場所】 甲賀市役所 別館101会議室

◎出席委員

名簿：別紙出席者名簿のとおり

◎事務局

甲賀市長	岩永裕貴
産業経済部長	近藤直人
産業経済部次長	山本典彦
商工労政課長	桶井幸一
商工労政課課長補佐	高市素宏

◎次第

1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

2. 挨拶

3. 委嘱状の交付

4. 諮問

5. 自己紹介

6. 会議の公開について

7. 議事

「甲賀市商工業振興計画」の見直し（案）について

- ・計画（案）
- ・実施プラン（案）

8. その他

9. 閉会

次第1：開会

甲賀市市民憲章唱和

次第2：挨拶

市長あいさつ

次第3：委嘱状の交付

代表して1名に委嘱状を交付

次第4：諮問

岩永市長から肥塚委員長へ

次第5：自己紹介

委員及び事務局自己紹介

委員長あいさつ

次第6：会議の公開について

次第7：議事

(1) 計画(案)・実施プラン(案)説明

(2) 質疑応答・意見交換

事務局： 「甲賀市商工業振興計画」の見直し(案)について説明

委員長： ご質問ご意見があればお願いします。

委員： 資料2の今回の見直しに伴う追加記載は具体的に計画(案)・実施プラン(案)のどこに記載されているのか。資料の見方について説明願いたい。

事務局： 一例として、資料2-3「計画骨子案」の5ページの「第2章 商工業振興の現状と課題」で、各分野の現状と課題を記載し、その課題解決に向けた取り組みの中で追加記載の4点を文章の中に落とし込んで記載をさせていただいている。

委員長： 例えば、「従業員の賃上げに取り組む企業を支援」とあるが、今回の見直し案のどこに記載があるのか。追記記載とあるので、どこに記載されているのかわからないと、皆さんどのように質問などすればよいかわかりません。

事務局： 賃上げの具体的な記載は、資料2-5「実施プラン」の9ページの「基本目標5 経営と雇用の安定化」に主な事業「中小企業の賃上げ促進」、事業の概要に「業務改善や生産性向上を促進するため、従業員の賃上げに取り組む企業

を支援します。」として具体的文言を記載している。

委員長： 実施プランに記載があるのは理解したが、追記とあるので、計画骨子案や計画そのものにも記載をするべきだと考える。

2点目に、今回の見直しで外国人留学生、高度外国人材等の積極的な雇用促進を追記記載をするとあるが、見直し（案）のどこに記載があるのか。

事務局： 高度外国人材等の記載についても、資料2-5「実施プラン」の12ページの「外国人の活躍促進」に文言を追記している。

委員長： 理系人材の育成は、骨子案には記載があるが、資料2-5「実施プラン」にも記載があるという理解でよいか。

事務局： 理系人材の育成という直接の文言はないが、資料2-5「実施プラン」の11ページの「人材育成の支援」に理系人材の育成に取り組む内容の記載をしている。

今後、直接に理系人材の育成という文言を入れるかどうか検討をしていきたいと考える。

委員長： 確かに、計画骨子案7ページの「3. 商工業を担う人づくり」に具体的な文言の記載があるが、最終的には計画そのものが重要になってくると考える。追加記載をしていくのであれば、実施プランだけでなく計画そのものに実施プランに至る根拠となる考え方の記載があるとよいと考える。

委員： 今回の見直し追加記載では、「企業の生産性向上」のために、「業務改善や生産性向上を促進するため、従業員の賃上げに取り組む企業を支援する」という項目を追加されるということだが、こちらの施策の具体的な説明を願いたい。

事務局： 企業の賃上げを実現するために、原資となる生産性の向上や利益率の向上という部分を達成いただき、好循環を生み出していきたいと思っている。市町村がターゲットとしている中小・小規模事業者は厳しい状況にあるが、好循環を生み出すために、甲賀市らしい取り組みがどのようなものがあるのか、意見をいただけたらと思う。

委員： そこはあえて生産性向上をする企業の促進に支援をもっていかないということか。賃上げをする企業の支援に重きを置くということか。企業が生産性を上げて利益が上がっているのに従業員の賃上げに還元していくといった好循環もある。今回は賃上げをする企業をあえて支援するという理解でよいか。

事務局： 両方を対象にしている。生産性を向上することと、賃上げを実現することで従業員の雇用の継続にもつながるということで、両輪の認識で考えていただきたい。

委員長： 両輪であれば、生産性向上している企業と賃上げをしている企業とは、どのような企業を支援するのか、基準を定めていただきたい。

事務局： 甲賀市らしい取り組みを考えていくに、市内には様々な産業がある中で、各

分野から実情をご説明いただけたらと思う。

委員： 薬の業界は現在、比較的順調であるが、賃上げを実現するには、やはり業績をあげるしかない。支援をするにあたっては、業績が伸びている業界に支援していくのがよい。人も伸びている業界に自然と集まっていくのではないか。

もう1点、資料2-4「計画たたき台」の地場産業の薬業の「配置薬販売はライフスタイルの変化に伴い、縮小傾向にあり、販売員の高齢化も進行していることから、構造的な課題を抱えています。」という文章について、「配置薬販売」は江戸時代から続く伝統的な甲賀市独特の販売方法であり、一回目の時からこだわって記載いただいていたが、「配置薬販売」の縮小は甲賀に限らず全国的に急激に進んでおり、現在は全国で「配置薬販売」をしている人が1万人いるが、10年毎に1万人減っている。「配置薬販売」の減少に歯止めがかからないという状況から、今回からこの2行を削除していただきたい。

委員： 理系人材という言葉があちこち記載があるが、製造業が順調ということもあってでてくるのかと思う。好調なうちに次なる新産業をどう生み出していかということが課題である。理系人材だけでなく、ものをつくる方だけでなく、売る方もミックスで考えられるようなうまい言葉を、理系人材だと研究・ものをつくるといった限定的にとらえられるので、幅広くとらえられるような言葉とか考え方があったらと思った。

2点目に、薬業のところに「新たなビジネスモデルの構築」とあって、どのようなことが考えられるのか。農業だと農林水産省が法律をつくって、第六次産業化を推進している。

委員： 今、製薬業界は大きく変わろうとしている。国がジェネリックを推進ということで、後押ししてきたが、不祥事により品切れが起こっている。その一方、市販で売っている葛根湯や鎮痛剤を医療保険を適用して病院で3割負担で入手できるという点を見直し、市販薬で使ってもらおうようにするという流れがある。

2点目は、販売制度検討委員会が昨年厚生労働省で開催されて、デジタル技術を用いて薬を販売していく方向性にあって、モニター越しに薬剤師又は登録販売者から説明を受けて購入できるようなシステムの導入が認められつつある。有資格者が店舗に常駐していなくても薬が購入でき、必要な時に連絡をとって薬を購入できる仕組みがつけられつつある。インターネットでの薬の販売が可能となっている。薬の販売のスタイルが様変わりしていて、その点に新たなビジネスチャンスがあるのではないかと考えている。

委員長： 「新たなビジネスモデルの構築」が期待されますだけでなく、そういった変化の中でビジネスチャンスを設けていきたいという趣旨で理解をしたい。あと、前回の見直しで「教育ファーム」という言葉を提案いただいたが、2-5

「実施プラン」に施策レベルとして具体的に入っていないというところで、このような取り組みがあればコメントいただき、参考にできればと思う。

委員： 農業をやっていないと聞きなれない言葉だと思う。今、子どもが農業に接する機会がなく、小さい頃から農業に接する機会をつくることが重要だと思う。日経新聞で単なる収穫体験でない農業体験ができる場所のランキングがあって、1位だったのが新潟のアグリパークだった。私も関わらせてもらった施設でして、この施設の特徴は日本で唯一の行政がつくった教育ファームになる。新潟市の子どもは在学中に必ず1回は農業体験をする場所である。この施設を作るときに気を付けたことは、教育委員会を巻き込んだことが最大のポイントになる。教育プログラムを農政部署と教育委員会が一緒になってつくった。フランスの教育プログラムをモデルにしている、先生たちがフランスまで視察にも行った。このプログラムは、農業体験の中で国語・算数・理科・社会といった科目の勉強ができるようになっている。例えば、メジャーを使って畑の敷地面積を計算するというところで算数の要素があったりと、子どもたちが勉強していることが将来の農業に役に立つんだと様々な要素を組み合わせでやっているプログラムが教育ファームの一番よい姿だと思っている。甲賀市もやはり農業は大切な産業なので、学校と協力しながら子どものうちから教育プログラムを学べる場所ができれば、自分でやるくらいで思っている。

委員長： 今は農業を事例にお話しいただいたが、それは別にものづくりや科学の面白さを体験するということも転用可能ですか。

委員： あらゆる産業に使えると思っている。

委員長： 振興計画に教育ファームを書くということは、2-5「実施プラン」に今お話しいただいた教育ファームを具体化していく必要があり、P11ページの人材育成支援のところに、他に挙げてもいいが、中身の検討をしていく必要があるのかなと思う。

委員長： 他に何かご質問ご意見ありますか。

委員： 理系人材のところで小さい頃から理系を学ぶのは非常にいいことだと思う。その中で、工場の見学などをするということだが、以前に「学びの体験広場」を教育委員会と甲賀市工業会でやっていて私どもも出展をしたが、コロナ禍で中止となり、できれば再開をしてほしいと思っている。そのような理系のところを学んで、最終的には2番の人材確保に結びつかないと、そのまま大学へ進学されて他のところに進学されたとなると悲しいかなと思う。その中で、高校だと工業科があるのが瀬田工業と八幡工業、彦根工業があって、求人票をもってまわっている。彦根や近江八幡だと、先生から甲賀は場所が遠いと言われる。なかなか来ていただけない。瀬田工業だとなんとか草津線沿線から通われる方もたくさんおられるということでもいいが、甲賀の方に工業系の学部がない

とこちらには来られない、こういったところに結びつけていくと最終的に人材確保につながるのではないのかなと思う。

委員長： 一つは小学校・中学校において、今後ものづくりや科学の面白さをどれだけ理解していただくのかというのは大変重要ですし、これは市としてできることでどのように強化していくのかというお話と、後のお話の工業高校もそうですし今後野洲にできる高専、今から小学校中学校でそういったことに関心を持つ人が増えないと、3・4年先だと思って今やらないと結びついていかない、今ありました高等学校のところで工業とか商業とかもう少し太くなるように見据えたことをやっていくのが必要かなと私も思っている。

委員長： 他に何かご質問ご意見ありますか。

委員： 外国人材の活躍と推進のところで、企業さんが外国人を受け入れるにあたってどのようにしていったらよいのか、ということが書かれている訳ですが、そもそも甲賀市の外国人は就労の機会がなく余っている状況なのか、それともこれから外国人にたくさん甲賀市に来てもらわないといけない状況なのか。どちらなのかと思った。それと、これから先人材不足で日本人で雇うことが難しくなっていく時に、長期的に考えて外国人に来てもらわなければならなくなっていくますし、企業の受け入れ環境を整えていく必要がある訳ですが、外国人の方に選ばれるまちになるための施策とかが必要になってくるのかなと、今の現状がわからなかったので教えていただきたい。

事務局： 甲賀市の外国人人口は増加傾向にあり、今8万8千人のうち5%という状況になってきている。5千人以上の方がおられ、今後も増えていくという状況だ。外国人の方にも活躍してもらえらるまちになりたい、その結果選ばれるまちにもなりたいということで、5月17日には水口に「みなくるプラザ」という外国人の交流、生活面の支援、子育て支援などを担っていく施設をオープンした。そういったところを強化しながら外国人に活躍してもらうまちになろうとしている。製造業などの企業の戦力になってもらうということもあって文言を入れさせていただいた。

委員： 雇用の状況は、仕事を探されている外国人が多いかどうかということだが、データが今ないのでわかりません。ただ、市で挙げていただいている外国人の活躍促進については、余っているからどうかというより選ばれるために何をしようという趣旨なのかなと思う。現状でも県内で甲賀市は外国の方が多いいのははっきりしていて、高齢の方・障がいをお持ちの方と同じ並びで外国人の活躍推進があるのはそういうことなのかなと思う。甲賀のハローワークを利用される外国の方は県内のハローワークに比べて多いというのが実際のところでは。

委員長： どういう仕事を求められているのか。

委員： 個別にはいろいろあるが、やはり製造系となる。募集が製造が多いのが先なのか、採られる希望が多いのかどちらが先なのかというところはあるが、一般には製造種が多い。仕事の中身よりも給料が高いところを選ばれる傾向にある。

委員長： 他に何かご質問ご意見ありますか。

委員： 人口の5%を外国人が占めているということですが、知り合いの小売業を営んでいる方の中には、今まで日本人向けの商売しかしてこなかったけども、これからもっと外国人が増えてくると商売の方法も変えていかないといけないと悩まれている方がおられる。そのような方へのフォローや商工業の外国人対応といった視点も必要になってくるのではないかと思います。

委員長： 外国人材とはどういう人材なのか。留学生や高度人材と記載があるが、どの人材も必要だと思うが、それぞれ質が違ってくる。甲賀市として技能生の外国人材をやはり製造業や、今では介護のところなど、いろいろな分野で外国人材が入っていくことが期待される訳だが、どのような人材のレベルの方を迎え入れていくことを想定しているか整理する必要があるのではないかと思います。具体的に施策を考えると、どの質の人材かによって施策の内容も変わってくると思う。

委員： 先ほど農業で体験という話があったが、体験したらすごく楽しい。焼き物も体験楽しいですが、商売にしようと思うと、やはり賃金の話になる。国は10月に毎年最低賃金を改定しているが、我々の業界はぎりぎりのところでやっている。外国人の方は賃金の高いところからみていかれると思う。以前に外国人材の斡旋業者からの紹介で、このくらいの金額でこのような人材が来てくれると話があったが、今の従業員の賃金が高い状況で、外国人材を新しく雇うことはできない。なぜこんなに賃金が安いかというと、信楽焼は伝統工芸でもあるし、1・2年で一人前にはなれないので、最初は給料が安くなる。現状は、陶器のものづくりが好きで給料が安くても来てくれているというのが実際のところだ。賃金を上げたら控除が受けられるなどはありがたいが、業績も上げていかなければなりません。業績を上げていくのに、商品の価格を上げました。例えば、1mくらいの狸の置物は、3年前の倍くらいの価格設定で販売している。釉薬や土などの原材料が高騰していて、特に釉薬の中には中国に買い占められたものもあって300%以上高騰している。商品の価格を上げたが、従業員の給料分は上がってなくて、原材料分が上がっているだけとなっている。普段の生活で買い物に行くと、今までと同じ量の買い物をして、毎度だいたい500円、1000円と支払金額が上がっている。従業員の給料を月に最低でも3万円上げてあげないと同じ生活できないと思っているが、正直上げられない状況です。結局のところ、皆さんが買い物を絞っていくことになっ

て、余計に経済が回らなくなったのではないかと考えている。そのような状況で、この審議会でもなにか解決策がないかということと一緒に考えていきたいと思っている。

委員長： 信楽焼の業界がそのようになっていると、大変勉強になりました。他に何かご質問ご意見ありますか。

委員： 人口減少で日本国内どの地域も同じような問題を抱えていると思う。その中で、地域の個性をだして対策をしていく手段に観光が一つの役割を担っていると思って取り組んでいる。国内で同じパイの中で人材を取り合っている中、仕方がないという中で、外国の方に来てもらうきっかけづくりをしていくことが大切だと思う。その地域に1度来てみてこの地域に住んでみたい。この地域で働いてみたい、この地域で子育てしてみたい、と思ってもらえるような地域のきっかけづくりとして観光に取り組んでいるところです。その中で、地域の方々は外国の方が来られても、言語の壁もあってどのように対応したらよいかわからないという課題もあり、観光分野では今対策を考えているところです。京都や大阪ではインバウンドで多くの外国人が来られオーバーツーリズムの中で、そのような外国人観光客を本市に誘導して集客したい。しかしながら、地域の受け入れ体制が全然できていないと、地域の人が拒否反応を示すという状況も考えられる。そこを丁寧にケアしながらアレルギー反応を示されないようにしていくことが協会の役割だと思いながら取り組んでいる。働く外国人も含め、観光に来る外国人も支援するような体制があればと考える。

委員長： 他に何かご質問ご意見ありますか。

委員： 商工会の中でいろいろ取り組んでいる中で甲賀で起業するチャンスは、草津・大津・東海道沿線での起業と比べて弱いところがある。人材確保の話をしている中で、チャンスにつながる支援やまちづくりが必要だと思う。やはり人がいないと勝負はできないし、いろいろな産業も発展していかない。比較的人口減少はとどまっている地域でもあるので、この地域を強固なものにするために、外向けのPRをしていって人材の育成に充てられるような起業のチャンスを与えられるような地域となるようなことをしていってもらえればと思う。

委員： 私が関わっている女性の企業支援の中で、6月30日に3回目の地域クラウド交流会を開催しました。女性起業家が、いろいろな起業家とつながってもらうことを目的に開催し、総勢137名の参加をいただいた。5人の女性起業家にビジネスプレゼンをしてもらい、参加費の1000円のうち500円を一番応援したい起業家へ投票してもらった。甲賀でこういった起業のチャンスをこれからも増やしていければと思っている。

委員長： そういった取り組みが広がっていけばと思っている。他に何かご質問ご意見ありますか。

委員：若い就職する世代の傾向として、買い物に行くのも住むのも草津や大津のまちの方へ行く傾向にある。個人の商店で魅力的な商品が増えていくなどまちとしてここに住んでもらえるようなものがあればなと思っている。

委員長：1点だけ気にしているのが、DXの書きぶりで、企業の生産性を目指す取り組みと記載がある。間違いではないが、DXのXの本来の意味は、デジタル化を進めながら組織を大きく変革していくということになり、例えばこれまでのやり方とは大きく異なる組織の経営の改革や経営の方針転換が本来の意味となる。生産性向上とだけ記載すると誤解を招くことにもなるので、商業・工業にDXという文言を使うとなると大きな変革を伴うという意味合いもある。Xには大きな意味合いが含まれるので、大きな変革を伴わないなら率直に言うとデジタル化でもよい。どれだけの意味合いがあるのかで書きぶりを工夫されればよいと思う。

委員長：時間となりましたので、これで本日の議事は終了となります。様々なご意見をいただきましたので、計画や実施プランについて見直しを進めていっていただければと思います。

次第8：その他

委員長：「その他」について、ご説明をお願いします。

事務局：次回の審議会を9月下旬から10月上旬で予定しています。11月には答申を予定しています。

どうぞよろしく願いいたします。

次第9：閉会

以上17時00分終了